

マイクロデナポンによるりんご「ふじ」の薬剤摘果

1. 試験のねらい

摘果は高品質の果実を生産する上で必須の作業となっている。摘果は早期に実施しなければならないが、そのためには短期間に大きな労力を必要とし、安定生産や規模拡大のうえから摘果作業の省力化が求められている。そこで、平成4年度に薬剤摘果について検討した。

2. 試験方法

10年生のわい性台木のふじを使い、満開2週間後、3週間後にマイクロデナポン水和剤1200倍液を樹全体に滴り落ちる程度に散布した。散布時に果実の横径と着果数を、散布後に時期を追って落果率を調査した。

3. 試験結果および考察

満開2週間後の散布では8mm以下の果実に対して、満開3週間後の散布では14mm以下の果実に対して摘果効果が高く、小さい果実ほど落果し易い傾向であった(表-1、2)。

満開3週間後の散布は、摘果効果は満開2週間後の散布よりも劣るが、比較的效果が安定していることから、散布時期として適当と考えられた。

満開2週間後の散布は摘果効果は高いが、過剰に落果した樹もみられたので、過剰な落果を防ぐ意味から花芽数・結実共に多い樹にのみ使用するのが安全である。

また、満開4～5週間後に落果が多いので、仕上げ摘果はそれ以降に行う(表-3)。

4. 成果の要約

マイクロデナポン水和剤1200倍液の満開2～3週間後の散布は、ふじの摘果剤として有効と考えられた。散布時期は、摘果効果の安定している満開3週間後の散布が適当であった。満開2週間後の散布では、3週間後の散布よりも摘果効果が高いものの、過剰落果も見られるため、花芽数・結実ともに多い樹にのみ使用するのが安全である。

(担当者 果樹部 益子 勇)

表-1 中心果の大きさ別落果率(2週間後散布) 表-2 中心果の大きさ別落果率(3週間後散布)

横径 (mm)	2週間後散布		無処理		横径 (mm)	3週間後散布		無処理	
	調査 果実数	落果率 (%)	調査 果実数	落果率 (%)		調査 果実数	落果率 (%)	調査 果実数	落果率 (%)
5	0	-	2	50.0	6	1	100.0	1	100.0
6	2	0.0	1	100.0	8	2	100.0	1	100.0
7	15	73.3	6	50.0	10	9	88.9	12	81.8
8	44	63.6	30	40.0	12	35	62.9	19	80.7
9	46	37.0	51	25.5	14	59	42.6	47	17.0
10	24	25.0	37	21.6	16	34	5.9	53	3.8
11	3	0.0	16	6.2	18	7	0.0	14	7.1
12	2	0.0	5	0.0	20	2	0.0	3	33.3
13	0	-	2	0.0	22	1	0.0	0	-
14	0	-	0	-	24	0	-	0	-

表-3 時期別落果率

処理時期	区	散布時 横径(mm)	満開後の時期別落果率 (%)					
			2週間	3週間	4週間	5週間	6週間	
満開後 2週間	中心果	処 理	8.19	0.0	0.7	2.9	33.8	45.6
		無処理	8.82	0.0	0.0	6.0	22.0	27.3
	側 果	処 理	7.08	0.0	3.3	23.4	63.9	67.9
		無処理		0.0	2.6	22.4	50.0	56.6
	全 体	処 理		0.0	2.7	18.7	57.0	62.7
		無処理		0.0	2.0	18.7	43.6	49.8
満開後 3週間	中心果	処 理	12.89	-	0.0	1.3	28.0	40.0
		無処理	13.61	-	0.0	6.0	22.0	27.3
	側 果	処 理	11.18	-	0.0	18.9	54.3	61.7
		無処理	11.18	-	0.0	20.4	48.7	55.4
	全 体	処 理		-	0.0	14.9	48.3	56.8
		無処理		-	0.0	17.7	42.4	51.0